



號 八 十 五 第  
 月 七 年 七 十 和 昭  
 行 發 日 十 一 月 每  
 行 發 日 十 一 月 每  
 錢 五 部 一 價 定  
 錢 十 六 (共 稅) 分 年  
 一 才 田 杉 編 發 行 發 行  
 一 才 田 杉 編 發 行 發 行  
 國 公 谷 比 日 區 可 圖 市 京 東  
 社 信 通 盟 同 所 行 發

# 愛社精神と愛國心

## 尊き御示範に感激

社長 古野伊之助

### 大業完遂 激動の半歳

十二月八日宣戰の大詔を拜して以來早くも半歳の月日が流れました。しかし夢のやうに過ぎ去つたこの半歳の間に、わが日本も世界も、かつて人類の夢みたことのない大きな大變革を経過しつゝあるのであります。この六ヶ月の間にわが帝國の態勢は守勢から斷然攻勢に轉じて米、英、蘭の各國が對日包圍陣として形造つた總ての足場は、東亞全面を防衛する金城鐵壁と化して必勝不敗の態勢整ひ、この足場を基礎にわれら一億の國民は天壤無窮の皇運を扶翼し、隆々たる國運を、いやが上にも隆昌ならしめ、一億火の玉となつてこの戰を戦ひ抜こうとするのであります。

この短い間に世界の歴史が、人類の運命が決定されるべきこの時期に廻り合せて、われら一人一人がこの大きな大業に關與し得ること何たる人間としての歡喜でありませうか。支那事變、大東亞戰爭と推移しつゝある間に、世界の人類は米英を中心とする世界制覇の結果二十億の人類が米英の願便に甘んずるか、或は世界に新秩序を確立して各國相倚り相助けて共存共榮の體制を整へ、その上に世界の平和を確立して行くか。即ち米英の世界制覇か、世界新秩序の確立かの二途いづれかを選ばなければならぬ岐路に立つたのであります。われわれは後者の世界新秩序確立のために獅子奮迅の努力をして着々とその大理想實現の方途に向ひつゝあることは單なる一人一人の人間としても感激極まりないことと思ふのであります。

われわれは今われわれがたどつてゐる進路、過去六ヶ月にわたつて歩んで来た経路を翻つてみると、き、それぞれの持場、それぞれの職分に應じて最善を盡し、この大業完成に喜び勇んで力を盡さなければならぬと思ふのであります。殊に同盟に職を奉ずるわれわれとしては直接にこの大きな對外的、對内的に大きな使命完遂になさねばならぬことの大きいのに日夜感激を新たにするばかりであります。

今日こゝに第六回目の大詔奉戴日を迎へて特に諸君に見せたいものが一つあります。それはほかでもない、この封筒であります。これは高松の 高松宮家から同盟通信社の情報部宛に送り返された封筒であります。この頃時々 宮家からかうした封筒に入れて同盟の通信を配達した空封筒が送り返されて參るのであります。或は二週間分、或は一月分と同盟通信の封筒が、宮家から送り戻されて來てゐるのであります。

御承知の通り大戦勃發以來われわれ同盟が國內に、また全世界に對して報道通信の任務に當つてゐるその一つ一つの働きは全國民のまた全世界各國の耳を聳て、聞いてゐる報道なのであります。もちろん 宮中におかせられましても同じやうにわれわれの日常の働きを直接間接に御聴きとりになつてゐられますことはいふまでもありません。高松宮家に對しましても同盟の通信を毎日何回となく御届け申上げてをります。ところがその同盟の封筒は取纏めてもう一度使ふやうにとの御趣旨で送り返しになつてをられます。

しかしこれにそれを纏めて御送りになつてゐる封筒はこれまた寫眞週報の表紙である。寫眞週報の表紙を封筒に直してこれに同盟通信の封筒を一纏めにして同盟に送り返して來られる。まだ度々頂戴してゐますが、これは一回の例に過ぎないのであります。一度 宮家に届いた郵便物の封筒を裏返しにし

て、こゝで同盟通信の封筒を一纏めにして送り戻された例もありません。この事實をわれわれは何とみてよいのでありませうか。物資愛護—この大きな戰爭をしてゐるんだ、物資を愛護しなくてはならない。われわれが社内においても本當に物資を愛護してゐるか、無駄に紙筆を浪費してはゐないか。かうしたことを反省する資料としてこれを考ふべきでありませうか。私はこれだけでは相濟まんと思ふのであります。單に物の愛護だけにこの尊い範を 宮家から垂れさせられた。この範を單なる物資愛護といふ氣持だけでお互が氣をつけなくてはならぬといふだけであつてはならぬと考へます。この大きな戰爭を敢行するに當つて畏くも 上御一人はもちろん、金枝玉葉の御身をもつて各部面に、邦家のために、或は陸軍、海軍に御働きになつてをられます。殿下の方々が、かやうなところまで細心の御注意を御拂ひになつてをられるといふその御心持の根柢をなすものは何でありませうか。これを考へなくてはならぬと思ふのであります。單なる物の愛護ではないのであります。國を愛する

この戰爭勃發以來わが國民は漸くにして日本民族の底力を本當に認識し得たと思ふのであります。私は度々申しますが、支那事變勃發當初鐵線に出で前線の將兵が骨を削り身を刻んで國のために戰つてゐる姿を目撃して、これから日本國民は必ずこの戰爭を契機として根本からその面魂を改めるに相違ないと確信して疑はなかつた。實際戰爭に出でゐる日本國民は國民の中でも一番中堅になり、一番働く國民層である。これが生死の巷を越えて國のために 君のために戰つて來る。この生死を超えた洗禮を受けた精神が基礎となつて一億國民の意識を必ず一變するに相違ないといふことを確信して疑はなかつた。

日本の識者層は明治維新以來七十年にわたつて歐米各國が物を中心にして思索した科學技術の發達に驚いて、あらゆる分野において

歐米の文物を受入れ、それと同時に歐米の思潮を國內に輸入した。日本の識者層は民權自由の主張をはじめとし、ロシアの第一次、第二次五ヶ年計畫などの話を聞けば直ちに唯物的な物の考へ方に陶醉した。獨伊が大戦後起上れば、何となく獨裁政治に魅力を感じてみた。かくのごとく相當長い間歐米の思潮の影響を受けて右往左往しました。

### 日本の眞姿 民族の底力

### 我が社理事會及び總會開催

本社第二十四回理事會は六月二十七日午前十時半より帝國ホテルに開會、昭和十六年度決算報告、定款および細則改正ほか四件を附議可決し、田中吉氏日本新聞會々長就任に伴ふ理事會々長辭任による後任に高石眞五郎氏(大阪毎日新聞)同副會長任期満了に伴ふ後任に阿部暢太郎(福岡日日新聞)山田金次郎(東興日報)の兩氏をまた常務理事上田碩三、理事光永

- 重任 (北國新聞) 林 政武
- 同 (東興日報) 山田金次郎
- 同 (河北新報) 一力 次郎
- 同 (信濃毎日新聞) 小坂 武雄
- 同 (熊本日日新聞) 伊豆 富人
- 同 (新潟日日新聞) 小柳 調平
- 新任 (神戸新聞) 木下 猛
- 同 (秋田魁新聞) 古村精一郎
- 同 (關門日報) 中島 幸基
- 同 (京都新聞) 浦田 芳郎
- 同 (鹿兒島日報) 兒玉 實良
- 同 (北日本新聞) 田中 清文
- △監事 (都新聞) 福田 恭助

### 恐懼反省

高松宮家の御垂範

社長訓示

(前頁より)

愛國の訓範

謹みて省察す

しかりて今度の戦争に現れた殉國の大精神こそ、これが何によつて培はれ、何によつて今日の華を開いたかといふことを考へなければならぬと思ふ。小さい自分ではない。國を、家を愛する心、これが國に殉ずる力となる。今日、天皇陛下萬歳を唱へつゝ喜んで死に就く國民が世界の何處に二つとあらう。小さな自分ではない。利己ではない。個人ではない。全體のために喜んで自分を犠牲にし、喜んで死に就いて行く。この魂こそ今日までの日本を防衛し、これから日本を支へて行く原動力であらうと思ひます。

この家を思ひ、國を思ふ考へは皇國日本においてこそ上下全く一致してゐるもので、上御一人を中心として一度皇國存亡興廢の分水嶺に立つた時に、一億一丸となつて誰も彼も本當に國のために家を忘れ、身を捨て、戦ひ抜くこの氣持ち――

なほかやうな瑣末な問題にいたるまで意を御用ひになり、國を愛する氣持を表現せられてゐるのである。われわれはわれわれの立場において、しかも身近にこの例をいふことを考へた時に、われわれはこの同盟を愛する氣持ち、同盟を育てる氣持ちは即ち、國を愛する氣持ちであり、國の活動を本當に旺盛ならしむる所以であると考へる。特にわれわれは日常の職務において大いに考へべき幾多のものがあるのではなからうかと考へる。この程中、適當の機會に諸君に是非この感じをお傳へしたいと思つてゐたのでありますが、今日たまたま第六回大詔奉戴日の機會においてこれだけのことを諸君に申上



前線 だより

マレー從軍記

昭南島支局の御好意で京都支局の皆様に於てより差上げます。上陸して奇異に感じましたものは熱帯特有の風俗や風景でした。坦々たるアスファルト道路を一步脇に外れるとジャングルがあつたり、またゴム樹が木並み整然と群生したりしてゐました。名も知らぬ果樹や椰子の大木も物珍しく感じました。北支軍軍機十里、炎熱のもと殆ど線樹をみなかつたことを思ひ合せたことは戦地でもわれわれの眼に慰安を興へてくれます。

或は機きつく炎天下、或は沛然たるスコールの中、ジャングルを抜け、アスファルト道路の追撃に一切の抵抗を排して連日連夜奮進を続け、遂に敵が難攻不落を誇る

部署替へ斷行

再教育、再訓練

なほこの機會にもう一つ言ひ添へておきたいことは、同盟三千の社員が一丸となつて同盟が國家のために擔つてゐる任務を火の玉となつて果し續けて行かなければならぬといふことを考へる時、果して三千の同志が本當に社全體といふ氣持ちに徹底し切つてゐるかどうか。

シンガポールに突入したときは感激一入でありました。敵無條件降伏の一瞬、〇〇上陸以來の苦闘も忘れ、全軍ただ萬歳萬歳を連呼し鬚面に笑は浮ぶれど眼には感激極つた玉の露が光つてゐるのでした。戦濟んで訪れたものは眞の平和でありました。住民は王道樂土の歡喜に心明るく、大東亞建設に起るにいたりました。昭南神社に敬虔な禮拜をささぐるものあり、また忠魂碑の建設工事も着々と進捗しつゝあります。天長節には奉祝門が全市諸所に設へられ、バス利用の花電車も美々しく繰出し、海軍々樂隊の行進、練々の餘興に終日大變な賑ひを呈しました。終に面白いマレー語を御紹介します。「飯(めし)は「メシ」、魚(さかな)は「イカン」、菓子「クエ」ださうです。

老黒山の狼群

安達 三郎

申上げてをります中に、早や七月近くなりまして内地も相當暑いことと思ひます。皆々様には種々報道戦線に御活躍なされてをられることと推察申上げます。北支も毎日百何十度かの暑さを續けてをります。小兵はじめ戦友達は南方の戦火戦果に耳をかたむければ身も心も躍動しますが、小兵等の任務は現在の警備、討伐にあり。従後の皆様に感謝しつゝ堅く戈を握つてをります。草々不備

長らく御無沙汰致して申譯ありません。(中略)さて國を出て既に〇ヶ月に垂んとし、その間、所を變ふること三度に及びました。仕合せにも好調なる健康を保持するを得て、専心御奉公の誠を盡してをります。家を出ては妻子を忘れ、國を出ては生命を忘る。武士の三忘を旨として國の趨く所、命の

強くあれ祖國

門 誠

員はもろろんのこと、既に三年、五年の經驗を経た諸君も、あらゆる機會に社のあるる部局を一巡してそれらの部局において、どの局、どの部においても同盟の使命を達成するために必要なならざるに對して十分の認識を持たせなければならぬと思ふ。つまらん割據的意識とか對立的觀念などは全部一掃して、本當に舉社一體の態勢を整へて行かねばならぬ。どうして異つた部局に對する仕事の理解認識を深めることが必要だと思ふのであります。

久し失禮してゐて申譯もあり

強くあれ祖國

門 誠

漸次仕事に支障を來さない範圍内において部署替へをやつて、一應本社を一巡した上で或は地方にも出てもらふことがあります。また大陸、南方をも一巡するやうにして行きたいと思つてをります。あらかじめ諸君に以上の趣旨を申述べて今後の御協力を期待するわけでありませう。

折柄、祖國がすべての苦惱を排して美しく伸びて行けかしと祈る心のしきりなるものがあります。當地の小さい經濟圏のなかにも舊法幣の問題など、少からぬ動きをあたへてゐるやうであります。そのなかに生活しては、多少の影響は排しても當然處理するべき事柄であると思つてゐます。今夕暮の空は遠雷をとまなつて鋭くひかつてゐます。やがて沛然たる雨の襲來しそうな氣配があります。麥秋とともに完全な雨期が訪れてゐます。この日あたり支那の節會でせうか、軒端に草蓆を吊してふつと内地のことをしねばせられたりしてゐます。

# 巢立つ青少年通信士

## 同盟講習所から第一線へ

大東亞戦争に即應し、わが無線報道網の飛躍的大發展に備へるため同盟講習所では本年一月から無線電信科の大擴充を行ひ從來初等普通の二學級合せて五十名内外であつたのが一躍百五十名の定員を收容することゝなつた。即ち普通科を第一部、第二部(初等)の二學級に分ち各々五十名を收容し、

らに速成科(五十名)を新設して技術訓練を行ふことゝなつた。この速成科は普通科第一部の優秀者若くは外部の實力ある者を競争試験により選抜入學せしめ、六ヶ月以内の短期間において毎日四時間の猛訓練を行ひ、人物技術共に實務に適すと認められる域に達した者は隨時卒業せしめてゐる。もち

ろん各學級を通じ報道戰士としての精神教育にもつとも力を注ぎまた正規の軍事訓練を實施して心身の錬成に努めると共に、本社幹部の常識講座によつて新聞人としての知識涵養に資し、短期間ながらも將來の中堅社員たるに必要な素地を作ることに全力を盡してゐる。

この頼もしい青少年通信士は早くも去る四月を皮切りに續々と學窓を巣立ち、若き社員若くは準社員として勇躍實務についてゐる。速成教育をうけて六月三十日まで卒業した諸君は二十七名で、うち奥山、宮脇の兩君は既にサイゴ

# 互助會報告

△六月分▽

大場 健次(編輯) 長女	伊達 由夫 同	赤澤 六郎 盛岡 實父死亡	福田 武 通信	山田 繁治(通信) 生後死亡	新井 正義 編輯	菅原 金吾 名古屋	勝尾 信一 名古屋	藤田 武 編輯(會員外)	山田 繁治(通信) 生後死亡	新井 正義 編輯	菅原 金吾 名古屋	勝尾 信一 名古屋	藤田 武 編輯(會員外)
永井 隆(神戸) 同	橋川 馨 同	菅原 昌子 通信	藤田 淑子 大阪(同)	富田 健二(通信) 同	井關 隆 同	今川 正美 岡山	梶田 實 大阪(同)	藤田 淑子 大阪(同)	田村 とし 北支(四月)	菅原 正美 岡山	今川 正美 岡山	梶田 實 大阪(同)	藤田 淑子 大阪(同)
上原 正吾(編輯) 同	堀田 榮 同	菅原 昌子 通信	梶田 實 大阪(同)	小川 三郎(同) 次男	井關 隆 同	林 修一郎 北支(四月)	梶田 實 大阪(同)	梶田 實 大阪(同)	田村 とし 北支(四月)	林 修一郎 北支(四月)	田村 とし 北支(四月)	梶田 實 大阪(同)	梶田 實 大阪(同)
西里 龍夫(中支) 同(四月)	倉田 正一 同	菅原 昌子 通信	梶田 實 大阪(同)	横地 倫平(大阪) 同	井關 隆 同	田村 とし 北支(四月)	梶田 實 大阪(同)	梶田 實 大阪(同)	田村 とし 北支(四月)	田村 とし 北支(四月)	田村 とし 北支(四月)	梶田 實 大阪(同)	梶田 實 大阪(同)
國吉 武夫(北支) 同(同)	小原 光志 同	菅原 昌子 通信	梶田 實 大阪(同)	菊江 榮一(南支) 同(同)	井關 隆 同	田村 とし 北支(四月)	梶田 實 大阪(同)	梶田 實 大阪(同)	田村 とし 北支(四月)	田村 とし 北支(四月)	田村 とし 北支(四月)	梶田 實 大阪(同)	梶田 實 大阪(同)
北川 武(北支) 男子(同)	小池 千尋 編輯	菅原 昌子 通信	梶田 實 大阪(同)	山田 繁治(通信) 生後死亡	井關 隆 同	田村 とし 北支(四月)	梶田 實 大阪(同)	梶田 實 大阪(同)	田村 とし 北支(四月)	田村 とし 北支(四月)	田村 とし 北支(四月)	梶田 實 大阪(同)	梶田 實 大阪(同)
△結婚	岡田 朝雄 大阪	菅原 昌子 通信	梶田 實 大阪(同)	新井 正義 編輯	井關 隆 同	田村 とし 北支(四月)	梶田 實 大阪(同)	梶田 實 大阪(同)	田村 とし 北支(四月)	田村 とし 北支(四月)	田村 とし 北支(四月)	梶田 實 大阪(同)	梶田 實 大阪(同)
△出産	大脇 孝 同	菅原 昌子 通信	梶田 實 大阪(同)	菅原 金吾 名古屋	井關 隆 同	田村 とし 北支(四月)	梶田 實 大阪(同)	梶田 實 大阪(同)	田村 とし 北支(四月)	田村 とし 北支(四月)	田村 とし 北支(四月)	梶田 實 大阪(同)	梶田 實 大阪(同)
△死	赤澤 六郎 盛岡 實父死亡	菅原 昌子 通信	梶田 實 大阪(同)	菅原 金吾 名古屋	井關 隆 同	田村 とし 北支(四月)	梶田 實 大阪(同)	梶田 實 大阪(同)	田村 とし 北支(四月)	田村 とし 北支(四月)	田村 とし 北支(四月)	梶田 實 大阪(同)	梶田 實 大阪(同)

# 運動場開き

南支總局の

廣東の酷熱を征服するにはスポーツに限ると、厚生運動に熱心な横田局長の肝煎りで總局舊館南側の空地に専用運動場を新設した。土俵、バドミントンコート、機械體操、プランコ、水遊び場を餘り廣くない場所に適宜に配置して大人も子供も愉快に遊べるやうに設計、それがこの程完成したので、去る六月七日華々しく運動場開きを舉行した。

恰も翌日が第六回日大昭奉戴日に當るので擧式を一日繰上げ、快晴の七日午前十時全員參集、國早儀禮の後横田局長大詔を捧讀し、君が代齊唱、嚴肅な空気の裡に式を閉じ、いよいよ愉快な運動場開き競技大會を行つた



(景光の耐技競)

# 同盟講習生募集

補缺及び新入生

同盟講習所では来る九月の新學期に補缺および新入生を左の通り募集します。同盟將來のために有爲の青少年を奮つて御推薦下さるやう本支社局各位に御願ひします。なほ電信速成科には特に學資補助の途があります。

△電信速成科(和、歐文送受信一分時七十字以上) 五〇名

△電信普通科第一部(同五十字以上) 五〇名

△電信普通科第二部(初歩) 五〇名

△速記科 約五〇名

(補缺及び初歩を含む)

△電文科(電文翻譯及び鐵筆係) 五〇名

以上何れも學力中學四年程度、年齢二十三歳まで、但し特殊有技者は別に銓衡す。

△豫科 若干名

(國民學校高等科卒業者)

× × ×

詳細は芝區芝公園正則中學校内同盟講習所へ御承合下さい。

